



風水害等に備えて

一部内閣府広報誌から引用
 一部国土交通省ホームページから引用
 一部気象庁ホームページから引用
 一部茨城県ホームページから引用

大雨情報をキャッチ! こんなときの我が家の安全対策

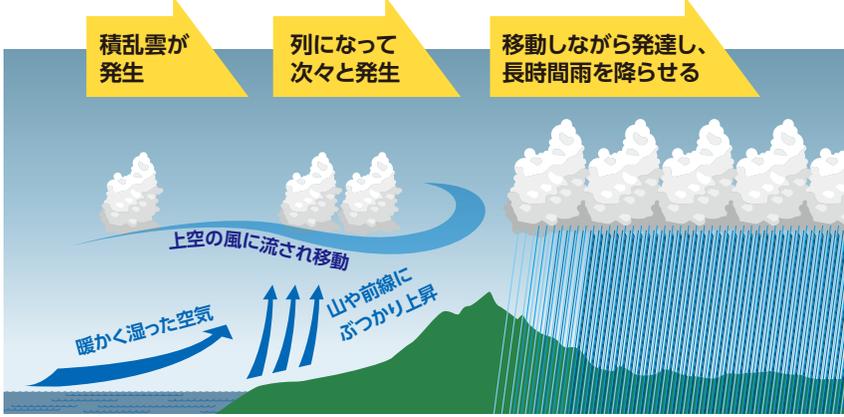
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」または「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表する。
大雨警報	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合
大雨注意報	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合

雨の強さと降り方(単位:mm/時)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
「やや強い雨」 ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	「強い雨」 どしゃ降り。ワイパーを速くしても見づらい。	「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになる。	「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。傘は全く役に立たなくなる。	「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水を伴う雨域。



記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表されます。

この情報が発表されたときは、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しており、特に崖や川の近くなど、危険な場所にいる人(土砂災害(特別)警戒区域や浸水想定区域など、災害が想定される区域にいる人)は、避難情報を確認し、発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。周りの状況を確認し、避難場所への避難がかえって危険な場合は、少しでも崖から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所へ移動するなど、身の安全を確保してください。避難情報が発令されていなくても、今後、急激に状況が悪化するおそれもあります。危険を感じた場合には、自ら安全な場所へ移動する判断をしてください。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、大きな被害をもたらすことがあります。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

台風の大きさと強さの目安

大きさ	大型(大きい)	風速15m/秒以上の半径 500km以上～800km未満	強さ	強い	最大風速(m/秒) 33m/秒以上～44m/秒未満
	超大型(非常に大きい)	800km以上～		非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
				猛烈な	54m/秒以上～

風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～30未満	30以上
「やや強い風」 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	「強い風」 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	「非常に強い風」 何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	「猛烈な風」 屋外での行動はきわめて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。



風水害等に備えて

水害時の心得

安全な避難経路の確認

避難する場合の避難所までの経路(避難経路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しましょう。



被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、土のうや板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎましょう。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。

※自宅内のトイレや風呂場、洗濯機の排水口に水のう(ビニール袋に水を入れたもの)を置くと逆流を防げます。



避難の呼びかけを

危機が迫った時には、防災行政無線や防災ラジオ、広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声を掛けながら避難しましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。



避難所までの移動

風雨が激しくなる前に早めに避難しましょう。避難することが危険な場合は、自宅または頑丈な高い建物の上階へ避難しましょう。(垂直避難)

※車による避難は、渋滞に巻き込まれたり、水没する危険性があるので、十分注意して避難しましょう。



歩ける深さは約50cm

洪水の場合、歩ける深さは約50cmまで。水の流れが速い場合、50cm以下でも危険。危ないと判断したら、無理をせず高い場所で救助を待ちましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているので、さわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいもの(長ぐつは避ける)を選びましょう。

レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色の物がよいでしょう。

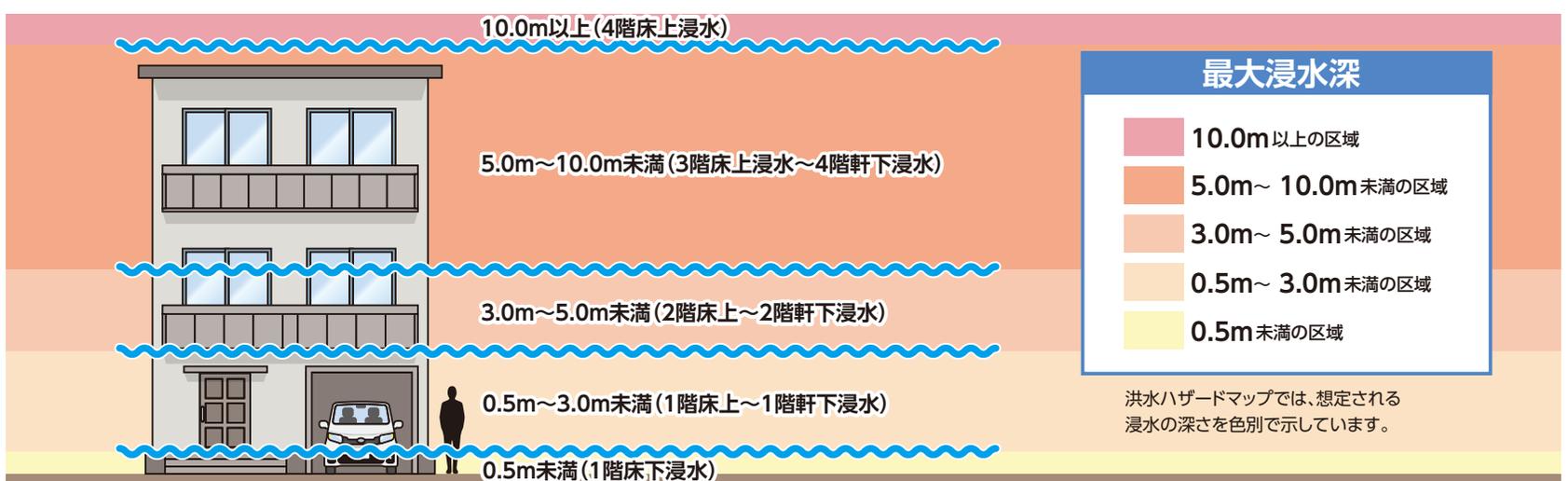


水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



浸水の深さについて



雪害

凍結や滑りやすい場所~こんなところにも注意!

日陰の坂道や歩道

橋、歩道橋、階段

マンホール

人通りの少ない裏通り

雪よせ路肩と歩道の間

車庫、自転車置き場

など

土砂災害の種類

突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまう土砂災害は、大きく3種類に分けることができます。

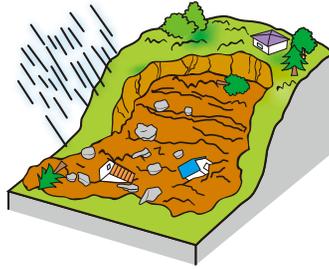
がけ崩れ

集中豪雨や地震などにより地盤が緩み、抵抗力の低下や浮石の抜け出しが生じて瞬時に斜面が崩れ落ちる現象。突発的に起こり、崩れ落ちるスピードが速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合が高い。



地すべり

比較的緩やかな斜面において、地中の滑りやすい層（粘土・泥岩などを含む地層）の地盤が地下水の影響などを受けて、ゆっくりと動き出す現象。一度に広い範囲が動くため、ひとたび発生すると人家、道路、田畑などに大きな被害を及ぼしたり、川をせき止めて洪水等を引き起こす原因になることもある。



土石流

溪流に貯まった土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流される現象。時速20km~40kmと自動車なみの速度で流れ、破壊力がとても大きいため、人家や田畑を押し流し大きな被害をもたらす。



土砂災害から身を守るために

土砂災害の危険が迫ったときには、すばやく避難することが大切です。いつもと違う大雨が降っているときには、避難準備をし、いつでも避難できるようにしてください。以下のような事象はすでに土砂が流れ出ている可能性がありますので、垂直避難など命を守るための避難を開始してください。

がけ崩れの前兆現象

- がけにひび割れができる
- 小石がパラパラと落ちてくる
- がけから水が湧き出る
- 湧き水が止まる
- 湧き水が濁る
- 地鳴りがする

地すべりの前兆現象

- 地面がひび割れたり陥没したりする
- がけや斜面から水が噴き出す
- 井戸や沢の水が濁る
- 地鳴り・山鳴りがする
- 樹木が傾く
- 亀裂や段差が発生する

土石流の前兆現象

- 山鳴りがする
- 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- 腐った土の匂いがする
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 立木がさける音や石がぶつかり合う音が聞こえる

イエローゾーン・レッドゾーン

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、土砂災害防止法に基づき、茨城県が指定しています。

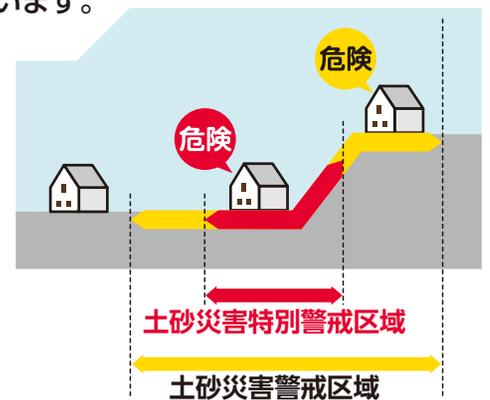
※土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



※土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域以外でも、土砂流出などが発生する場合がありますので、傾斜のある場所等では注意しましょう。

避難行動のポイント

1. 上記の土砂災害の前兆現象に注意し、すぐに避難を行う。
2. 土石流やがけ崩れの起こる方向に対して横方向に避難(①水平避難)する。
3. 大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(②垂直避難)することも考慮する。
4. 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。
5. 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。
6. 自分が危険だと判断した場合、避難情報等の発令、避難所開設の有無に関わらず早めに避難を行う。

